



防衛医大病院広報誌 第16号 2025年1月発行
企画・編集 防衛医科大学校病院 患者支援センター
発行責任者 塩谷 彰浩
住 所 〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2
T E L 04-2995-1511 (代表)



防衛医大【^{まもる}護】通信

病院長 年頭挨拶 塩谷 彰浩



皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。最近の当院の話題として皆様にお伝えしたいことがあります。当院は、2024年11月1日付で、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価「一般病院3」の基準を達成していると認定されました。

病院機能評価は、病院組織全体の運営管理および提供される医療について評価するための仕組みで、国民が安全で安心な医療が受けられるよう4つの評価対象領域から構成される評価項目を用いて、日本医療機能評価機構が第三者の立場で、中立的、科学的・専門的な見地から評価を行い、病院の質改善活動を支援する目的として実施されます。

評価結果では、特に当院として、これまで力を注いできた医療安全体制について、「安全確保に向けた体制の確立」項目において、最高ランクの評価を受けました。

本年も「高度で安全な医療を提供しつつ地域医療に貢献する」という理念のもと、「特定機能病院」として、職員一同、地域の皆さまの健康を守るべく、「患者さんの視点」に立った医療の提供のため、一層努力して参ります。

看護部長 就任挨拶 村松 陽子



2024年4月1日付けで看護部長に着任いたしました村松陽子と申します。前職は山梨県の大学病院で看護部長として勤務していました。この度、ご縁があり当院で勤務することになりました。母の実家が深谷市にあり、私もそちらに在住していたことがありますので、埼玉県は「第2のふるさと」という思いが強く、恩返しのため現職に力を注ぎたいと思っていますのでどうぞよろしくお願いいたします。

看護部は、看護部理念「愛と智」のもと、患者さんひとりひとりが、安心して療養生活を送っていただけるように、安心して質の高い看護を提供するために日々努力をしています。私たち看護師は、医療の高度化や在院日数が10日を満たさずに退院していく患者さんに対し、入院当初より退院後を見据えた看護ケアを提供していく必要があります。しかし、入院から退院までのスピードが早く、検査や治療があつという間で、心配や困りごとをお話できずに退院されている方はいらっしゃいませんか。私たちは地域医療の中核病院として「防衛医大に通えてよかった。防衛医大の看護で元気になれた」とみなさまから言っていただけるように、看護実践力の向上と他職種と連携を図りながら、患者さん中心のケアを推進していきたいと思っています。看護師一同、患者さんのお声を大切に看護に反映させていただきますので、不安や困りごとは、お家に持ち帰らずに、看護師へお声がけください。お待ちしております。以上で看護部長の就任挨拶とさせていただきます。

教授 就任 挨拶 総合臨床部 教授 廣岡 信隆

皆様、あけましておめでとうございます。

令和6年4月1日付で、防衛医科大学校病院総合臨床部の部長・教授を拝命いたしました廣岡伸隆（ひろおか のぶたか）と申します。防衛医科大学校の16期生です。1995年に卒業し、初期研修、専門研修、また2012年から約2年半の総合臨床部勤務を経て、前職の

埼玉医科大学総合診療内科・地域医療科からの異動となります。専門は、総合診療、総合内科といったジェネラリストです。

現在は、2018年より開始された新専門医制度において「総合診療」が第19番目の基本領域として認められ、当科においても後期研修のプログラムとして、この総合診療専門医を目指す専攻医の研修の場も提供し、同じ領域の専門医として診療に当たり、また一緒に学んでおります。私が卒業した頃は、このような制度が整っておらず、米国のFamily Medicineという同じくジェネラリストの専門研修に参加しましたが、現在は日本においても、人口動態に合わせ多疾患併存の患者さんが増える状況において、幅広く、そして患者さんの持つ心理的・社会的背景を居住する地域の中で診療するジェネラリストの需要が増加し制度が整ってきております。しばらくすると所沢周辺においても、総合診療専門医が地域医療を支える仲間として勤務する姿も見えてくると想像しています。この専門分野のキーワードであり、求められる資質の大きなものが「連携重視」です。

総合診療の使命は、全人的に提供するとともに、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看とりなど、保健・医療・介護・福祉活動に取り組み、絶えざる自己研鑽を重ねながら、地域で生活する人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応する（日本専門医機構整備基準より）ことにあります。

総合臨床部では、総合診療の理念を基調として、患者様の抱える症状や健康上の悩みなど幅広く対応し、症状や臓器・疾患にとらわれず、診察する科として常に連携を意識しながら診療を進めたいと思っております。

- ・どの科を受診すればよいかわからない
- ・初期の診療から専門医へつなげてほしい
- ・病気というより複数の症状があって一度まとめて診てもらいたい

このような場合に、かかりつけの先生等からご紹介を受けて診察させていただいております。そして、我々の診療から患者さんや家族、またかかりつけの先生にも安心して慣れ親しんだ地域でスムーズに、ケアを引き継いでいただけるよう取り組んで参ります。

最後に、日頃より病病連携、病診連携として患者様のご紹介を含めご協力、ご指導いただいております先生方、また患者さんを中心とした多職種連携を頂いております全ての医療関係者の皆様に感謝申し上げます。ご指導、ご鞭撻を賜りながら、地域医療に貢献する所存でございます。引き続き、何卒よろしくお願い申し上げます。

新年が、皆様にとってさらに充実したものでありますようお願い申し上げます。



医局のみんなと

市民公開講座を9月12日（木）に開催致しました

今回は、上部消化管外科及び栄養管理による市民公開講座を開催し、多くの方に参加を頂きました。

●『胃がんの治療について』 上部消化管外科医師 堀口 寛之 先生

講義内容は、外科的治療を中心に、胃がんの疫学、胃がんの症状（進行、転移など）、外科的な治療方法について受講者にわかりやすく、講義をして頂き、みなさん感心している様子でした。

●『術後（胃がん）の栄養管理について』 病院管理栄養士 池田 栄一 先生

術後の基本的な考え方（体重低下、食事など）、毎日の食事の基本（食事の回数、避けた方がよい食品、注意が必要な食品、消化のよい料理法など）、術後に係る栄養管理の講義を受講者にわかりやすく、講義をして頂き、参加者の方が感心されている様子でした。

*次回の市民公開講座は、令和7年 2/14(金)を予定しております。参加は無料ですので、ご興味のある方は是非、ご参加してください。当院HPにも案内を掲載（「広報誌「護」／市民公開講座」欄）致しますので、どうぞお楽しみしにしてください。



堀口 寛之 医師



池田 栄一 管理栄養士

地域医療連携検討会を11月26日（火）に開催しました

『人生100年時代！高齢者に多い整形外科疾患～変形性膝関節症・骨粗鬆症に対するアップデート～』

●『変形性膝関節症の診断・治療』 防衛医科大学校病院 整形外科助教 中村一喜先生

半月板損傷・逸脱、内側半月板後根断裂(MMPRT)の特徴として、好発年齢は中高年の患者（40歳以上で女性が多い）、階段昇降や軽い段差を跨ぐ動作などの軽微な動作でも膝から異音がする、裏側に強い痛みが出現する場合は、内側半月板後根断裂(MMPRT)を発症している可能性がある。予防には手術が必要。

そのような強い症状でなくても、2～3カ月程度の保存的加療にもかかわらず膝痛が改善しない、又は関節水腫がある方もMRIによる精査が望ましいとのことでした。

●『変形性膝関節症のリハビリテーション治療』

防衛医科大学校病院 リハビリテーション部准教授 田村史沙先生

膝関節症は40歳以上の男女6割で発症。膝のサイン見逃さない、簡易ケアと専門ケアの違いを知る、グルコサミン注射には限界がある、日々のセルフケアで膝の健康を守る、ケアを続けることは将来の健康に繋がる投資である等のお話があり、エクササイズの指導も頂きました。

●『骨粗鬆症について』 所沢白翔会病院副院長（整形外科） 安岡宏樹先生

骨粗鬆症の治療率は低く、約20%である。骨粗鬆症治療薬の使い方について、骨吸収抑制剤（デノスマブ等）骨形成促進剤（テリパラチド）、SERMをメインに投与し、併用薬でビタミン剤やカルシウム製剤を用い、高Ca血症に注意が必要であるとの講演でした。

骨粗鬆症の治療薬の考え方として、最新では骨を作り壊さない骨形成促進と骨吸収抑制作用のロモズマブの投与が開始されているが、1年以内の心臓・脳血管障害のある患者には禁忌である等の最新情報を伺う事が出来ました。薬剤だけでなく、医療スタッフの重要性や新設される骨粗鬆症診療支援コーディネーターについての説明もありました。



中村 一喜先生



田村 史沙先生



安岡 宏樹 副院長

病院理念

高度で安全な医療を提供しつつ地域医療並びに自衛隊の医療・衛生活動に貢献し、優れた自衛隊医官・看護官等を育成する

基本方針

- 1 患者さんの視点に立った、安全で良質な医療を提供する
- 2 地域医療機関と密に連携し、地域に貢献する
- 3 高度で先進的な医療を提供する
- 4 地域の中核として救急医療を実践する
- 5 新興感染症に対して敏速対応できる体制を整える
- 6 災害対処能力の向上に努める
- 7 自らの使命感を自覚し、豊かな人間性と高い倫理観を備え、自衛隊の多様な任務にも対応しうる医官・看護官等を育成する

【初診予約についてお願い】

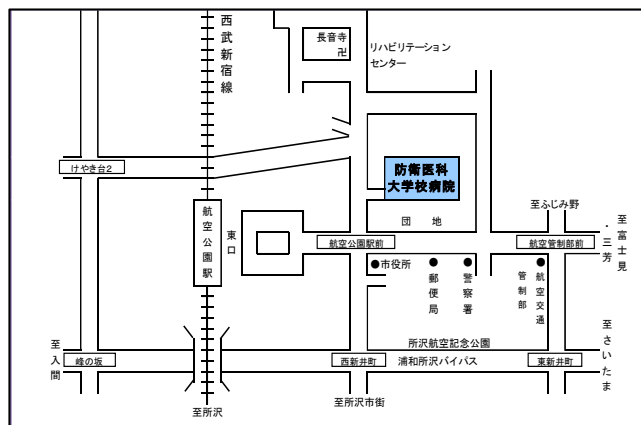
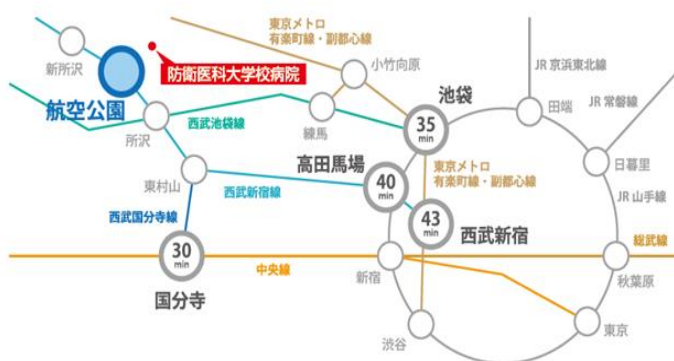


※右のQRコードを読み取り「初診予約受付のご案内」を参照ください。

当院の精神科、感染症・呼吸器内科、脳神経内科、膠原病内科、血液内科、糖尿病内分泌内科、泌尿器科（泌尿器科一般・尿路腫瘍）、泌尿器科特殊外来【尿道狭窄症・尿失禁（男性）】、消化器内科特殊外来（脂肪肝炎）の初診外来は完全紹介予約制とさせていただきます。

上記診療科初診希望の患者さんを紹介頂く場合は、医療機関の皆様から当院地域医療連携センターへFAXにて初診予約をお願い致します。患者さんからの予約は受付しておりません。ご理解・ご協力を宜しくお願い致します。

アクセス(交通のご案内)



医療連携の連絡先

地域医療連携センター

初診予約、緊急入院・受診、
セカンドオピニオン、病状紹介等
TEL：04-2995-1511 内線 3043・3882

患者支援センター

退院調整、在宅調整、医療福祉相談、
がん患者相談、脳卒中相談等
TEL：04-2995-1511 内線 6123～6126